

白いぼうし

二〇一〇年六月四日(金) 一校時

第一次指導(話を整理し、話の山を探す)

- 声を出して読んでみた人手を挙げて。  
(ほぼ七割が挙手)
- 手を挙げなかった人も、心配ないよ。読むのをしっかり聞くと、面白い話だと分かるよ。

◎ 区画 絵に合わせて六区画(指示)

- 六人に読んでもらいます。分けますから、鉛筆を出してください。絵にも番号を付けます。

- 1 五二ページ 一行目 「これは…
- 2 五四ページ 三行目 アクセル…
- 3 五六ページ 一行目 「せっかく…
- 4 五七ページ 四行目 車に…
- 5 五九ページ 一行目 「お母さん…
- 6 六〇ページ 七行目 そこは…

- 一 よむ(席順で区画ごとに音読 六名)
- 読む順番は、決まっていますか。

縦に順に読む。

- それでは、あなたからお願いします。

(順に6番まで。次の6人も…)

- 1番の人は、題も読んでください。大きな声でゆっくり読んでください。聞く人は、本をしっかりと持って聞いてください。
- 読んでくれた人、最初なので緊張したようですが、がんばって読んでくれました。

よかったです。聞く人も、よい姿勢で聞いてくれました。

二とく(読後感の整理の話し合い)

△題目▽ (題を手がかりに話を始める)

- 黒板に書きますから、見ていてください。  
(白いぼうし 板書)
- あまんきみこさんの「白いぼうし」という不思議な話です。その白いぼうしの絵を開けてください。
- このぼうしは不思議な色ですが、何色ですか。

白です。

- この白いぼうしは、誰の物ですか。

たけやま幼稚園たけのたけおです。

(たけお 板書)

- ぼうしのつばの上にあるのは何石です。

その石は、誰が載せたのですか。

松井さんです。

(松井 板書)

- ところで、今、ぼうしの中にあるのは何。

夏みかんです。

- 夏みかんです。では、その前には何が入っていましたか。

もんしろちようです。

もんしろちようです。

- もんしろちようです。この蝶をぼうしの中に入れたのは誰ですか。

たけおです。

(もんしろ 板書)

- では、夏みかんを入れたのは誰ですか。

松井さんです。

(夏みかん 板書)

- 夏みかんの絵を開けてください。この夏みかんの色はどんな色ですか。

黄色です。

レモン色です。

- そうですね。染めつけたような色ですが、何を染めつけたような色ですか。

日の光です。

- 日の光を染めつけたような鮮やかな色ですが、その他にも、この夏みかんの特徴がありますか、何ですか。

においです。

- △ひびき▽ (印象が強く最後まで関わる)

- 素晴らしいにおいのする夏みかんです。このにおいを最初に嗅いだ人は誰ですか。

お客の紳士です。

- 紳士ではありません。この夏みかんのにおいですよ。

松井さん。

- 松井さんでもありません。

おふくろです。

- おふくろです。誰のお母さんですか。

松井さんのお母さんです。

- では、二番目は誰ですか。

紳士です。

- 松井さんです。

松井さんにおいまで届けようとおふくろが送ってくれたんですね。

- 三番目は誰ですか。

紳士です。

- 紳士です。

たけおです。

- 紳士です。四番目は、誰でしょうか。

お母さんです。

- お母さんです。

- お母さんです。

お母さんです。

- お母さんです。

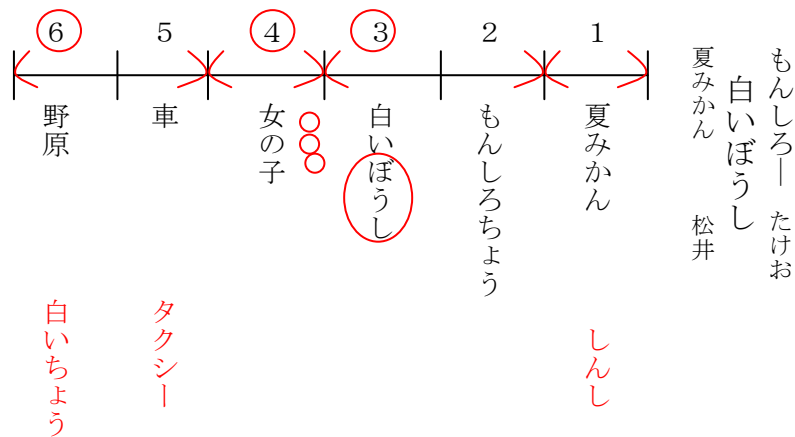
お母さんです。

- 違います。これ、難しいかな。  
女の子。
- 女の子でしょう。その次は。  
たけおくんとお母さんです。
- ところで、この中に出てくる人で、においをかいていないのは誰ですか。  
……。
- 石井先生（担任）のような人です。  
お巡りさんです。
- 太ったお巡りさんは、この夏みかんに  
おいはかいていません。
- ここに出てきた人で、不思議な人が一人  
いますが、誰ですか。  
女の子です。
- この白いぼうしが、不思議な女の子と出  
会う話でした。
- △手引き▽（書き出す言葉の指示）
- ノートを出して、題名を書いてください。  
（横一線を板書する。）
- 皆さんは、題の次の行から数字の1、2  
と書いて、線は書かないでよいです。  
（横線を区切り1、2…と板書）
- この不思議な話を考えるために、絵の中  
の言葉を文章から探して書いてもらいます。  
最初はみんな考えながら書いていきま  
しょう。①の絵は、何でしょうか。
- 夏みかんです。
- 1の下に、夏みかんと書いてください。  
（夏みかん 板書）
- ②の絵を開けて、何がありますか。  
もんしろちよう。
- もんしろちようと書いてください。
- ③番からは、自分で選んで書いてくださ  
い。  
（もんしろちよう 板書）
- 三よむ（手引きに従い黙読）  
四かく（選んだ語句を視写 師は板書）  
○ 3は、何と書きましたか。  
白いぼうし。  
（白いぼうし 板書）
- 4は。  
女の子。  
（女の子 板書）
- 5は。  
車。  
（車 板書）
- 6は。  
クローバー。（半数）  
白いちよう。（四分の一）  
たんぼぼ。（四分の一）  
野原。（二名）  
（野原 板書）
- 自分の選んだのが大事です。みんな、正  
しく探しました。先生は、野原にしました。
- 五よむ（板書を全員で指黙読・指音読）  
○ 最初は、目で読みます。  
（鞭で指示しながら）
- 姿勢を正して、腰を立てるとよい声が出  
ます。この棒に合わせて元氣よく読みまし  
よう。
- 六とく（板書事項をもとに話し合う）  
△事実▽（板書事項を関連付ける）
- ここ（5）の車は、どんな車ですか。
- そう、人が乗る車。  
人が乗る車。  
○ そう、人が乗る車ですが。  
タクシーです。
- タクシーです。（タクシー 板書）  
○ このタクシーのお客さんは二人います。  
誰ですか。  
女の子。
- そう、一人は女の子です。  
（女の子の横に小さい○を板書）
- もう一人は。  
紳士です。
- 紳士です。出てくるのは何番ですか。  
1番です。  
（夏みかんの下に しんし）
- この紳士が乗ったのはどこですか。  
ほりばたです。
- 乗ったのはほりばたです。  
（ほりばた 板書）
- では、降りたのはどこでしょうか。
- 白いぼうしのある所。
- そう、ぼうしの所ですが、何て書いてあ  
りましたか。  
細い…うら通り。
- 大通りを入った裏通りで降りました。  
（うらどおり 板書）
- ところで、女の子が、乗ったのはどこで  
しょうか。  
……。
- 紳士が降りた場所でしょう。では、降り  
たのはどこでしょうか。  
……。

- 団地。  
菜の花橋。
- この中でいうと…。  
野原です。
- 小さな団地の野原の辺で女の子はいなくなっていたんでしょう。
- この野原にたくさんいたものは何。  
白いちょうです。
- その他にも白いちょうがいますね。何番ですか。  
2番です。
- 2番のもんしろちょうです。このもんしろちょうは、ここにいる前は、どこにいましたか。  
ぼうしの中です。
- ぼうしの中です。(ぼうしを丸で囲む)
- この白いぼうしが、この不思議な話の始まりだという話です。
- △区分▽ (二区分とそれぞれ二区分)  
○ 松井さんが不思議なことに会った話はどこからどこまでですか。  
4から6までです。
- 4から6まで (括弧をつける。) ですか。  
では、前は、誰が驚く話ですか。  
たけおくんです。
- たけおくんです。(1から3を括弧で)
- たけおくんが驚くのは、何ですか。  
夏みかんです。
- 夏みかんの話とその後の話に分けられます。(1と2の間に括弧)
- 松井さんは、何に驚くのですか。  
女の子です。

- 女の子がいなくなると驚く。  
(4と5の間に括弧)
- △山▽ (詳しく読んでいくところの発見)  
○ 松井さんがたけおくんを驚かせるところの3とたけおくんのことが出ている4と松井さんが不思議な体験をする6を詳しく読みます。
- 家でよく読んでみてください。色が何色出てくるかを考えて読んでみましょう。  
△余韻▽ さわやかさ
- 七よむ (全員で板書を指音読)  
○ 黒板を読んで終わります。さっきのような元気な声で読んでください。  
(元気に読む)
- では終わります。  
一時間目の勉強を終わります。  
ありがとうございます。
- ありがとうございます。楽しかったよ。

〈板書事項〉



第二次指導第一時

六月七日〔月〕 五校時

- うちで読んでみた人。  
(七割が挙手)
- 色は何色ぐらい出ていましたか。  
あ、忘れた。(という声あり)
- 五色より多いと思う人。  
(半数がうなづく)
- 一 よむ (前時の続き 六名 音読)
- 今日の人頑張って読んでくれました。  
二 とく (前時の復習と本時へ繋ぐ話し合い)  
(おさらい)
- 金曜日の復習をします。絵を描きます。  
(絵を描き) 何だろう。  
夏みかんです。  
夏みかんです。これ誰の物ですか。  
おふくろです。  
田舎のおふくろの物でした。その次は。  
松井さんです。  
この夏みか人を誰にあげましたか。  
たけおくんです。  
入れ物は。  
ぼうしです。  
ぼうしです。(絵を描く)
- ここまで、この夏みかん、何で運んできたか。  
タクシーです。  
タクシーです。松井さんの車です。  
(車 板書)
- この車、夏みかんの他に運んで来たものは。
- 人の他には。  
においです。
- 夏みかんのおいも運んできました。  
どこまで。  
小さな団地の小さな野原です。  
○ 小さな団地の小さな野原まで運びました。(野― 板書)
- (横一線を引いてから 野―の上に)  
ここは、6番でした。(車の上) ここは5番でした。では、ぼうしは、何番。  
3番です。
- 3番です。(3 板書) では、夏みかんは、何番。  
1番です。
- 1番でした。(1 板書後、2、4も)
- 後、不思議なものが出てきたでしょう。何ですか。  
ちようです。
- ちようです。もんしろちようです。  
(2の下にも― 板書)
- 後は。  
女です。  
女、続きがあつたな。  
女の子(という声も)
- 女の子です。(4の下に 女― 板書)  
そういう話の始まりが白いぼうしだったということですよ。
- (承接) (本時へつなぐ話し合い)  
この夏みかんを間違えたのは誰。  
紳士です。
- 紳士は、何と間違えましたか。
- よくにおつたので、レモンと間違えました。その夏みかんのことを嬉しそうに話しました。どんなことが嬉しかった。  
おふくろが送ってくれたこと。  
香りまで送ってくれたこと。  
速達で送ってくれたこと。
- 松井さんは人の気持ちがよく分かる人です。嬉しいので、送られた夏みかんの中でもどんな夏みかんを持ってきたの。  
一番大きいのです。
- 一番大きいのです。松井さんの宝物です。そんな松井さんが何を心配した。  
ぼうしが飛ばないかと。
- どうなってしまうと心配したの。  
引かれてします。
- そう、交通事故に遭ってしまうからね。それで、拾い上げたら失敗してしまいました。そんな松井さんをじろじろ見た人がいましたね。  
太ったお巡りさんです。
- お巡りさんに見られた後は、何番ですか。探してください。  
2番です。
- 2番は、見られているところです。その次の3番を勉強します。  
(手引き) (視写するところを指示)
- 3番の最初、鍵括弧になってるね。そこから、「車にもどりました。」というところまで書いてください。
- 三 よむ (黙読)
- 四 かく (視写)

- 五 よむ (板書を全員で 指黙読、指音読)
- 六 とく (板書された文章について話し合う)  
 (語義 (意味や働きの難しい語句)・区分)
- 難しい言葉はありますか。  
 かたをすぼめる。
- 肩をすぼめる格好をしてくれる人。  
 (前の男の子が、してみせる)
- そうですね。(頭も下げて肩を丸めて胸も丸める格好をしてみせながら) 似た意味の言葉があります。どれですか。  
 つつ立っている。
- つつ立っているは、棒を立てたような格好です。(直立の姿勢を見せる) がっかりです。
- がっかりした時の格好が、肩をすぼめるです。他に難しい言葉はありませんか。  
 せつかく。
- せつかくが説明できる人。  
 苦労してやっと捕まえる。
- やっと捕まえた時に使います。他は。  
 えもの。
- これは。(えものに傍点) 食べ物。
- 食べ物の中にもある。魚なんかね。狙ったもの。「狙ったえものは逃がさない。」と使います。
- そのえものは、何ですか。  
 もんしろちよう。
- 「この子」って誰。  
 女の子。
- ちよつと違う。  
 たけおくん。
- たけおくんです。ところで、鉤括弧が付いていますか。  
 松井さんの言葉。
- 松井さんの言葉です。考えていることとしてもいいでしょう。
- ここは、鉤括弧のところとその後に分けられます。後を二つに分けると。  
 松井さんはから車に戻りました。
- 松井さんのやったことで、二つに分けられます。(括弧をつける) 車にもどる。  
 かたをすぼめてつつ立っていた。
- そうです。(それぞれに傍線を引く)
- こっち(鉤括弧)も二つに分けると。  
 せつかくのえもの。
- いいね。あなたの答え、先生貰います。  
 (えものに傍線)
- もう一つは。  
 がっかり。
- がっかり。その子はがっかりです。  
 (その子に傍線)
- 〈心〉(文章の核心を話し合い、味わう)  
 急いで車にもどりました。(急いでを丸で囲み) 急いだのは、素晴らしいアイデアが浮かんだからです。鉤括弧の前の方か後の方か。
- たけのたけおくんのがっかりです。  
 がっかりを何に変えるアイデアですか。  
 びつくりです。
- がっかりをびつくり(板書)に変えるには、ちよつとの代わりに何にすれば…。  
 夏みかん。
- 夏みかんです。(夏みかん 板書) 松井さんは、優しい人で、そして、…。  
 面白い人です。
- 松井さんは、優しく面白いです。  
 うちで読んでみてください。面白い話だと思えますよ。
- 余韻 (松井さんの笑顔を思いながら)
- 七 よむ (全員で 指音読)
- しっかり読めました。終わりました。



四 かく  
五 よむ  
六 とく

〈語義・区分〉

- 難しい言葉ありますか。  
ぐいぐい。
- 「ぐいぐい」が説明できる人は。  
綱引きの時のようにぐいぐいひっぱる。
- いいですね。力を入れて引つ張ります。  
かかえた。
- 「かかえた」が説明できる人。  
(こういう風に)手で持って。
- そう、体にくっつけながら持っているときに使います。持っている網が、この子にとっては、大きい小さいの大きいです。
- 大きいものを持っている感じですが。他になければ、「本当」を説明してください。
- 本物。  
本物は、どちらの本当ですか。  
本当のちようちよの方です。
- 前の方は。  
あのぼうしの下にちようちよがいるってこと。
- 捕まえたのは、うそじゃないということとです。
- 「だもん」を説明できる。  
強く言っている。
- いいね。強く言っている時に使う。
- 「新しい」、この虫取り網、使ったこと

あるのかな。

ない。

- 初めて使うのどうと考えるとおもしろい。「まま」は、どうでしょう。  
そのまま…。
  - 外に出る時は、普通は、エプロンを脱ぐの脱がないの。  
脱ぐ。
  - エプロンを脱がないでそのまま着けているのです。
  - 会話と地の文とをそれぞれ二つに分けます。まず、こっち(話)を考えます。  
男の子の顔の向きで分けると。  
お母ちゃん、本当だよ、のどこ。
  - あなたは、そうね。(つぎつぎと、六名くらいに聞く)あ、みんなそうなの。そう考えてもよさそうだけど、ぼうしの方を見ているところとお母さんの方を見ているところに分けると、ここで( )をつけながら)いいでしょう。
  - では、こっち(地)は。お母さんのことはどこですか。  
エプロンを着けたままのお母さん。
  - そう、( )つけながら)エプロンを着けたままの、までです。
- 〈心〉
- 男の子のしていること二つ。  
新しい虫とりあみをかかえた。
  - そう、「かかえた」(傍線)です。何を。  
虫とりあみを。
  - もう一つしていることは。  
お母さんの手をぐいぐい引っぱって

てきます。

○ そう「引っぱってきます」(傍線)です。何を。  
お母さんの手を。

- もつと短く言うて。  
手をです。
- 手を引っぱってきます。張り切ってます。引っぱっているのが分かる言葉があります。ぐいぐいです。
- ぐいぐい(○で囲み)力いっぱい引っぱっています。それもそのはずですよ。自分の力で初めてちようちよを捕まえたんじゃない。どこで分かる。  
新しい虫とりあみ。
- 新しい虫とりあみの、どれで分かる。  
新しい。
- 新しい(新を○で囲み)、初めて使う虫取り網です。こっち(話)のにも、得意な気持ちになっていることがわかります。  
だもんです。
- だもん(○で囲み)で分かります。まだ他にもありますが。  
(子どもたち考え込んでいる)  
だよ。
- だよ(○で囲み)でも分かります。  
(……)
- もう一つ。  
下さあ。
- さあ(○で囲み)にも気持ちが出ています。先生が読んでみるから、違いを聞いてください。
- あのぼうしの下。おかあちゃん、本当。

本当のちようちよがいた。どう。では、つけて読みます。(少し誇張して読む)

○ 違いが、分かったでしよう。その意気込みに、お母さんも引っぱられてきました。どこで分かれますか。ままです。

○ エプロンを着けたまま、脱ぐ暇もなく手を引かれてきました。

○ これは、ぼうしを開けた時が楽しみになります。

〈余韻〉(松井さんの頭の中を想像しながら)

七 よむ ○ 元氣よく読んで終わりました。

〈板書事項〉

えもの || 夏みかん  
がっかり ↓ びっくり

「あのぼうしの下ぎあ。」

お母ちゃん、本当だよ。

本当のちようちよが、

いたんだもん。」

水色の新しい虫とり

あみをかかえた男の子が

エプロンを着けたままの

お母さんの手を、ぐいぐい

引っぱってきます。

第二次指導第三時

六月十日〔木〕 二校時

○ まだ、一回も読んでない人、三人います。その人、読む順番はいいですか。はい。

○ 4番は、その席から始めます。5、6番とお願いします。

○ 昨日、家で読んでみた人。(三名挙手)

○ こういう話は、何回も読んで暗唱するくらいになると楽しくなるよ。家でも読んでみなさいね。

一 よむ 六人

○ 今日は、昨日までより大きな声でゆっくり読んで下さい。

(最初の男の子が張り切る。続く五人も声が大きくなる。)

○ 今日の六人は、大きな声が出てよかったです。聞く人もしつかり聞けました。

二 とく 〈おさらい〉

○ 絵を描きます。(○の右に小さい楕円)これは、何ですか。夏みかんです。

○ 夏みかんではありません。昨日の復習です。これ、(小さい楕円) 目です。たけおくんです。

○ たけおくんは、(点線をつけながら)こちちを見えています。その先に何がありますか。ぼうしです。



○ ぼうしです。ぼうしを見ています。では、手を描きます。そして、(斜めに線を引き、その先に半円を描く) これ、何。虫取り網です。

○ もう一方の手を描きます。この手の先はどうなっていますか。

お母さんの手です。

○ お母さんの手を引っぱっています。だから、体は、脚は、どうなっていますか。(体の線を斜めに、脚は上げている絵を描き足す。)

○ あのぼうしの下さあって、どっちの手を動かす。

お母さんと手をつないでいる方。

○ そうかなあ。虫取り網を持っている方の手が動くんじゃないかな。

〈承接〉

○ だんだん近くなってきた、よく見えるようになると、たけおくんは、何を見つけた。

つばの上ののった石。

○ 石です。(ぼうしのつばに石を描く)

○ その声を聞いて、慌てた人がいます。女の子です。

女の子の声で慌てたのは、松井さんです。

(アクセルを踏みましたという声あり)

○ 松井さんは、アクセルを踏んでスピードを上げていきました。でも、本当は、どうしなかったの、松井さんは。

男の子がぼうしを開けるのを見た

かった。

○ そうです。だから、頭の中に浮かんできたでしょう。

口を○の字に開けている男の子。

○ そのたけおくんの顔を想像して、松井さんはどうした。

笑いました。

○ ふふふっと笑っ顔が変わりました。どうして。

女の子がバックミラーから消えた。いなくなりました。そういえば、この女の子、最初から少し変でした。小さい子だけでも、普通言わないことを言っていたように思いますが…。

菜の花横町。

○ 菜の花、菜の花橋のことね。他にもあるよ。普通言わないことよ。

行っても行っても四角い建物ばかりいわない。

○ 四角い建物なんて、人間だったらあまりいわない。

〈手引き〉

○ その不思議な女の子がいなくなると、松井さんが見ているところを探してください。

六十ページです。

○ そう、6番ですが、松井さんが見ているところですよ。

六十一ページ。

○ その上を、おどるように飛んでいるちようを見ているうち、とあるでしょう。「おどるように飛んでいるちようをみて

いるうち、(中略)小さな小さな声でした。までを書いてください。

三 よむ

四 かく

○ 皆さんの書いたのを見ましたが、鉛筆の色がよく出ていて良かったです。ちよつと色の薄い人が三名いました。工夫してね。

五 よむ

○ 今日は、元気よく、お腹から声を出してください。

○ よかったです。(頑張って読む)

六 とく

〈語義・区分〉

○ 難しい言葉は。ぼんやり。

○ ぼんやりが説明できる人。ぼうつとしてる。

○ そう。はっきり見ていないときに使います。糸の先に五円玉を吊るしてゆっくり動かすのをぼうつと見ていると。眠くなる。

○ そうだね。そんな様な見方をしていると考えると面白そうだ。他は。おどるように。

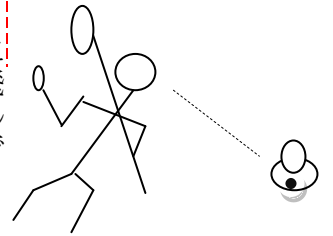
○ おどるは、分かるね。(身振りをする) ようには。にている。

○ まるで、おどっていると思えるということね。ここ(板書)にも、おどっている様などころがあります。どこ。

- (しばらく考えている)
- この鈎括弧の使い方、少し工夫してあるのよ。(板書を指しながら) 上に行ったり下に行ったりしている。
- おどっている様でしょう。作者の工夫です。おもしろいね。他には。
  - はじけるような。
- シヤボン玉がはじけるようになって。
- シヤボン玉がプツチとはじける。
  - そう、はじけるって。
    - 割れる。
- シヤボン玉が、割れる音を聞いたことがあるかい。
  - (口々に何か言っている)
- シヤボン玉がはじける音、何となく分かるでしょう。そんなような小さな音です。他は、ないですか。みんな、いいことを聞いてくれました。この(指しながら)「には」を説明してください。
  - 松井さんだけに聞こえる。
- そう、他の人は、分からないけど、松井さんには聞こえるということですよ。
  - 「それは」のそれって何のこと。
    - 小さな声。
  - そう、声ですが。
    - ちやうどの声。
- ちやうどの声。どこに書いてありますか。書いてあることで見つけましょう。前に書いてあります。
  - 小さな声。
- 小さな声です。松井さんに聞こえてきた

- 声のことです。
- この部分を三つに分けて。渡辺さんどうですか。真ん中の部分を言ってください。
  - 会話のところ。
- そうです。声のところですよ。前は、誰のことですか。
  - 松井さんのことです。
- 松井さんのしていること二つあります。
  - ぼんやり見ている。
- ぼんやり見えている(傍線)。もう一つは。
  - 聞こえてきた。(傍線)
- 後の方は、何の説明。
  - 声。
- 声が小さいという説明です。
  - (心)
- 真ん中の声のところから、これ、男の話しか女の話しか。
  - 女。
- (挙手して)いた子七、八名に聞く
  - と全員女と答える。
- どうして女と感じる。
  - よかったねのねです。
- 男だったら。
  - よかったなです。
- そう。私もそう感じました。「良かったよ。」の方は、男も女も使いそうだよ。そこは、それぞれの想像でいいと思います。そこが、こういう話の面白いところですよ。
  - この話は、誰だけに聞こえるの。
    - 松井さん。

- どこで分かるの。
- には
- (にはを○で囲み) 不思議ですね。このときの松井さんもちよつと不思議ですよ。
  - ぼんやり見ている。
- この声、誰の声だろう。
  - ぼうしから出たもんしろちやうが、疲れて、松井さんの車に来て、みんなに会えたところですよ。
- おう、そう思うの。他の人はどうですか。そう思う人。
  - (八割くらい挙手)
- はつきり書いてないので、それは、それぞれの想像でいいと思います。
- 松井さんと同じ体験をしてみたい人。
  - (4割くらいの子が挙手)
- 余韻 (そのときの松井さんになって。)
  - 七
  - よむ
  - 元気よく読んで終わります。
  - よい読み声でした。
  - 明日は、漢字の勉強をします。新しい漢字の書き順は、教科書で調べてください。そして、役割分担で読みます。石井先生と相談して決めてください。
  - よく頑張りました。終わります。楽しかった。



おどるように飛んで

いるちようをぼんやり

見ているうち、まついさん

には、こんな声が聞こえて

きました。

「よかったね。」

「よかったよ。」

「よかったね。」

「よかったよ。」

それは、シャボン玉の

はじけるような小さな

小さな声でした。

第三次指導第一時

六月十一日〔金〕 一校時

- 今日で、先生との勉強は終わります。昨日、話したように役割を決めて読みます。

（地の文 松井 紳士 女の子 だけお 最後の会話）

- 今日は、座ったままで読んで下さい。大きな声でお願いします。会話は、その人になって読んでみましょう。

- この話は、昔の話です。戦争が終わって、日本が元気になったころの話です。松井さんは田舎から出てきて、都会で仕事をしています。どんな仕事。タクシーの運転手です。

- このころのタクシーは、今のようによくはあつたでしょうか。なかった。

- なかったと考えると、この話面白く思います。それでは、1番のナレーターは、題と作者を読んでください。

- 一 よむ 十二人
- 二 とく

（おさらい）

- 昨日の復習をします。今日も素晴らしい絵を描きますので見ていてください。ピカソよりうまい絵かな。

- これ（たんぼぼ）何でしょうか。

- たんぼぼ。
- それでは、こっちは、何。綿毛。

- たんぼぼの花と綿毛の交ざった野原です。それでは、広げて描いてあるのは。クローバーです。

- では、今から描く、これは、何。白い蝶です。

- この白い蝶は、ひらひらと上になったり下になったりしています。それを見ているときに、松井さんは不思議な体験をします。それは、いつ始まった。見始めからか、見えていつの間にかですか。いつの間にかです。

- だんだん、見え方がどうなっていくの。ぼんやりです。

- ぼんやり見るということは、はっきり見えるの、見る力は弱くなるの。弱くなる。

- 見る力は弱くなる。そうすると、他の力が強くなります。どこですか。耳です。

- 耳です。よく聞こえるようになる。それで不思議な声が聞こえたんでしょう。どんな声ですか。ちようの話し声です。

- シャボン玉の弾けるような小さな小さな声でした。あなたは、ちようと考えたのね。

- もう一つ、よくなったところがあります。どこですか。鼻です。

- 松井さんの気持ちは、この声を聞いてさわやになりました。そのことを作者はちよこつと書いています。何。

夏みかんのおいです。

○ かすかに残っているのは、酸っぱいい匂いだからね。夏の暑い日には、酸っぱいジュースを飲むと気持ちさがさわやかなるでしょう。

○ 本当に不思議な世界があるものです。こういう話を何とか知っていますか。ファンタジーです。

○ 松井さんを主人公にした「車の色は空の色」がシリーズになっています。読んでみましょう。

○ こういうファンタジーを楽しめるのは誰だと思いませんか。

作者。空想する人。子ども。

○ 子どもの特権です。読んでください。

〈手引き〉

・ 漢字の勉強をします。先生が文の一部を読みながら漢字を書きますので、聞いて漢字を書いてください。書けない漢字は黒板を見てもよいです。一行に一組書いて、その下は空けておくようにしてください。

三 よむ

かく

四 よむ (読む前に送りがなの確認)

○ 送り仮名の必要な漢字はどれで、何と送りますか。(答えられるものから) 変わる。わると送る。

○ この字は、「かわる」と読みます。「か」とは読みません。「かわる」と読んでもら

いたいときには「わる」と送り仮名をつけます。(以下同様に)

○ 元氣よく読んでください。六 とく

〈文中の位置〉

○ ここに書いてある漢字を六つの区画ごとに分けていきます。6から考えるとい

いかな。残るから黄色まで。

○ できました。次は。笑いと化ける。

○ 5番ですね。次は、1番がいいかな。

○ 1番もできました。残りは2から4です。置くこと飛び出すです。

○ これが2番。残りは、一本引くだけ。辺りと菜の花の間。

○ 3番と4番です。できたでしょう。素晴らしい。

○ この話の面白さを板書中の言葉で示すとは何でしょうか。化けるです。

○ そうです。似た意味の言葉があるでしょう。それは何。変わる。

○ 合わせる。変化になります。

○ 変わるとか変化したのは、どの言葉に出ていますか。探してください。

信号(書に変わる) 置く(白いぼうし)

飛び出す(蝶) 客席紳士・女の子  
笑い(松井) 交ざる(たんぼぼ)  
○ この話の大事なものの夏みかんと関係のあるのは。  
速達 置く 飛び出す 化ける  
運転席 辺り 残る 黄色

○ 残りの時間で漢字の勉強をします。この漢字を使って、君達の知っている言葉を書きます。読めるものを調べてください。(省略 板書参照 多過ぎ一列がよい)  
七 よむ

七 よむ

〈板書事項〉

子 ファー

